

第88回SCCJ研究討論会で最優秀発表賞を受賞

資生堂 宮井研究員

資生堂 みらい開発研究所 宮井 雅史研究員は、7月22日にオンラインで開催された第88回日本化粧品技術者会（SCCJ）The Society of Cosmetic Chemists of Japan）研究討論会にて、発表内容・プレゼンテーション・質疑応答などにおいて最も優れた発表に対して贈られる「最優秀発表賞」を受賞した。



宮井 研究員

ソトリプシンと、その抑制因子である「SERPIN B12（別名「YUKOPIN」）」を新たに同定し、メソトリプシンとYUKOPINのバランスが角層重層化（角層が適切に剥離されずに分厚くなること）に関わることを明らかにした。さらに、加齢によって生じる角層重層化が、化粧品成分の角層浸透を妨げる様子の可視化にも成功した。

同社は50年以上にわたる角層研究に取り組み、肌を健やかに保つには、水分、天然保湿因子（NMF）、脂質のバランスが重要であることを見出し、角層の個々の成分の働きや状態を高めて角層を育成するという「コル

シック・ジャパン 後藤秀夫氏が社長に就任

ネオ育成理論」を提唱するなど、スキンケアを進化させてきた。

今後、先端的な手法を開発・活用して角層研究に取り組み、個々人の

ウェットシェービング国内トップシェアを誇るシック・ジャパンは、8月1日付で代表取締役社長に後藤秀夫氏が就任したことを発表した。



後藤 社長

後藤氏は、1996年にジョン・エンド・ジョンソンでキャリアをスタート。営業・マーケティングを経験し、2005年より日本ロレアルでは11年の在職中に日本と台湾において、コンシューマー・プロフェッショナルの両事業を統括した。同社の職を歴任した。複数の企業でリーダーとして手腕を発揮して事業

後藤氏は社長就任にあたり「日本に上陸してから60年以上にわたり日本を戦略的に重要な市場と位置づけ積極的に投資を継続してきた。我々の強みや独自性は革新的かつ高品質な製品とサービスにある。美に対する様々

APEXの肌分析件数が2000万件を突破

ポーラは、パisonナライズドサービスブランド「AP 33年」で2000万件（2022年7月末現在）を突破した。

今から約33年前の1989年に誕生した「AP EX」は、「なりたい肌への近道は自分の肌を知ること」という考えのもと、肌分析を通して、顧客一人ひとりの肌個性に寄り添い、肌分析技術や提供サービスを進化し続けてきた。

現在は、専用の肌カメラと肌の動きを撮影した動画をともに、肌のビッグデータとAI技術を活用し、14秒の撮影動画から170万個以上の特徴量を正確に抽出して、ハリ、毛穴、くすみ、シミ、ニキビなどさまざまな項目で、その人の今と近い未来に現れやすい肌状態の分析を行っている。



株式会社カウシェ 代表取締役

門奈 剣平 氏

The Voice

オフラインに代わる他の手段で販売を続けることができていた。この体験をきっかけに、日本のECには進化すべき余地がたくさんあり、コロナ禍の経験によってECは社会にと

「カウシェ」は、1人では買えない物ができない「シェア買いアプリ」で、友人や家族、またはSNS上の誰かと、自分を含めて2人以上で購入をする「シェア買い」をすることで、割引価格で商品を購入できるのが特徴だ。7月28日からは美容・コスメカテゴリーの取り扱いを開始した。Creative Groupの調査によ

シェア買いアプリ「カウシェ」

美容・コスメの取り扱いを開始

門奈氏は2007年まで上海で生まれ育ち、2015年に慶應義塾大学環境情報学部を卒業、2012年よりLoco Partners 2人目のメンバーとして入社、宿泊予約サイト・Reluxの海外事業立ち上げから責任者を務め、年間取扱高50億円の大

な卸売市場も仕入れを控え、モノが大量に捨てられている状況を見て、近頃絶望的に感じた。一方、世界で最もEC化が進んでいる中国では、アリババなどを筆頭に様々な販売手段があり、休業に追い込まれているお店の販売員もライブコマースで接客販売をするなど